

Open the Way ～2020とその先の未来へ～

NTTグループは、お客さまに選ばれ続ける“バリューパートナー”として、総力を挙げて取り組んでいます。NTT R&Dでは、新たな発想でイノベーションを創出すること、および“触媒”としてさまざまな事業者の皆さまとのコラボレーションで社会を変革していくことをめざし、新たな世界を切り拓くことを意味するOpen the Wayを研究のコンセプトとしました。

その中で、近年注目が急速に高まりつつあり、かつ社会を変革する原動力となりうるAI^(※1)やIoT^(※2)に関連するNTT R&Dの技術についてご紹介します。

社会を変革するAI&IoT Agent-AI

サービスイノベーション総合研究所 サービスエボリューション研究所

Agent-AIとは、NTTグループのAI「corevo™」^(※3)を構成する4種のAIの一つで、音声・言語・画像メディアから、人の意図や感情を理解し、ロボットや仮想エージェントによる身振り手振りも交えたマルチモーダルインタラクション^(※4)を通じて、人との高度な対話を実現するAIです。人の活動の一部を支援・代替しながら、お互いが得意な領域を分担し、共存することで、人々の日々の生活を豊かなものにします。

将来に向けては、一生涯にわたって人に寄り添うAIを実現することで、若い世代も高齢者も、共に輝ける社会をめざします。

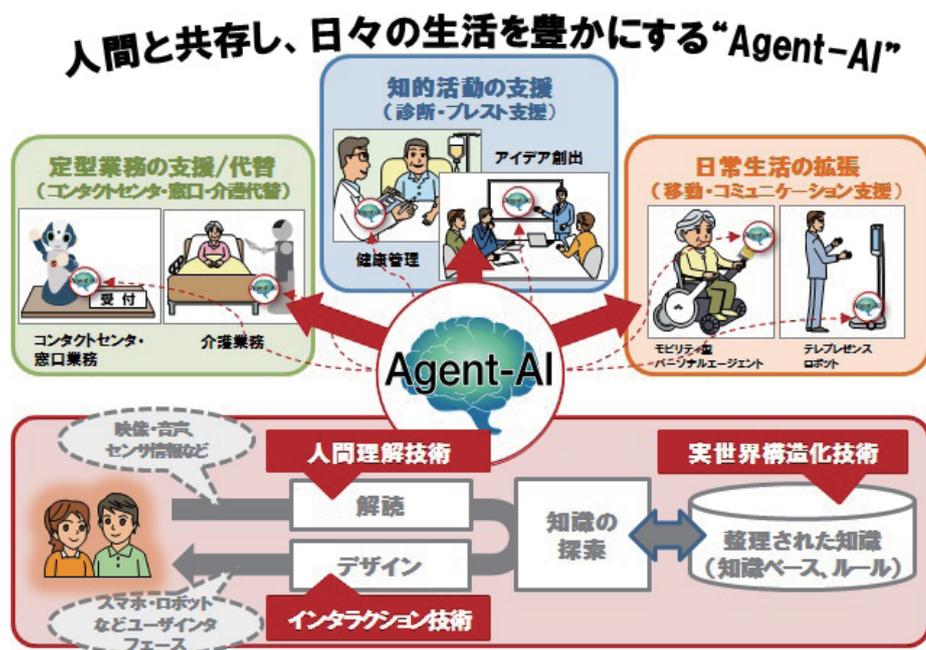
(※1) AI：人工知能（Artificial Intelligence）

(※2) IoT：モノのインターネット（Internet of Things）

パソコンやサーバー、スマートホンなどの情報・通信機器に限らず、それ以外のさまざまな「モノ」（テレビ、デジタルカメラ、センサーなど）にインターネットを接続し、相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと

(※3) corevo：NTTグループにAI関連技術を活用した取り組みブランド

(※4) マルチモーダルインタラクション：音声や視線やジェスチャーなどによる人間とシステムの間での情報のやりとり



Agent-AI の概要

Open the Way

～2020とその先の未来へ～

人の可能性を広げる新たなサービスを実現する「R-env:連舞[®]」

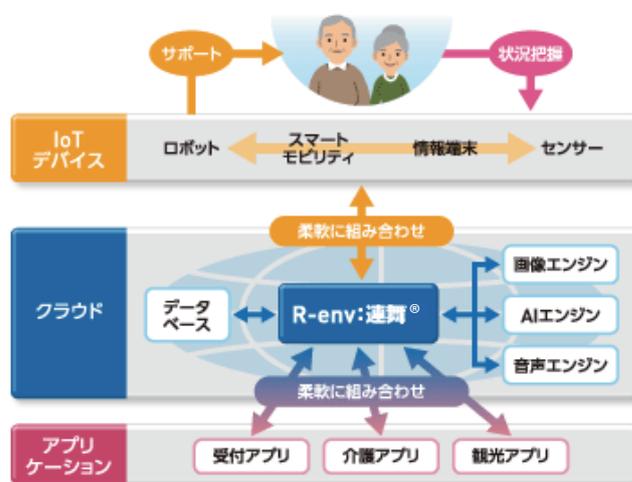
サービスイノベーション総合研究所 サービスエボリューション研究所

「R-env:連舞[®]」は、Agent-AIにおけるインタラクション技術として、マルチモーダル・マルチデバイスによる人に優しいインタラクションの実現をめざす技術です。

現在、ロボットやIoTシステム等は、さまざまな技術により高度化しつつありますが、本技術は、これらロボットをはじめとする高度なデバイスやシステムを横断的に連携させることにより、単体のデバイスでは実現できない「気づき」や「気づかい」ができるヒトとモノとのインタラクションを実現することを目的として開発された、クラウド対応型インタラクション制御技術です。言い換えるなら、本技術は、ロボットを「作る」のではなく「使う」ための技術の一つであり、ロボットやセンサー等各種デバイスを連携させたアプリケーション（サービス）を誰でも簡単に開発するための技術です。

クラウド対応型インタラクション制御技術「R-env:連舞[®]」の概要

- ロボットなど、人を取り巻く各種IoTデバイスが相互に連携
- 様々なアプリやデバイスを柔軟に組み合わせ、豊かな生活を創造
- 人の状態を的確に把握し、音声による対話などで個人にあわせたサポート



クラウド対応型インタラクション制御技術「R-env:連舞[®]」の概要^(※)

◆特徴

- ・ ロボットや家電、健康機器など多種多様なデバイスを連携させたクラウドサービスが実現可能
- ・ ブラウザによる開発環境とビジュアルプログラミングでサービスを簡単に
- ・ Web技術を利用することで、多様なデバイスやWebサービスと容易に連携可能

◆利用シーン

- ・ 健康機器とロボット連携による健康チェックなどの介護分野
- ・ カラオケとロボット連携などのエンターテイメント分野
- ・ サイネージとロボット連携による案内支援などの観光分野
- ・ 電動車いすとスマートフォンの連携によるナビゲーションなどの交通分野

これまでの取り組みを通じて、金融機関等の受付業務や高齢者向け介護業務のサポート、スマートモビリティとの連携など、さまざまな場面での適用可能性が見えはじめています。今後はオープンイノベーション活動を進めることで、NTTだけでは想像できなかった多様なシーンへの適用について検討を進めています。

本取り組みを通じて、機械が人の状況を「理解し」、人に「働きかけ」、人の新たな行動や気づきを「促す」世界の実現を、皆様とともに加速していきます。

(※) 出典：株主通信 NTTis 2016.6 特集 NTT グループの研究開発
URL：http://www.ntt.co.jp/ir/library/nttis/201606/feature1.html